

既存化学物質審査シート(良分解性等・人健康影響・生態影響)

(平成21年12月18日開催)

官報公示 整理番号	CAS No.	物質名称	判定結果		頁
			人健康影響	生態影響	
2-140	75-50-3	トリメチルアミン	二監相当		1
2-186	75-59-2	テトラメチルアンモニウムヒドロキシド	二監相当		3
2-1065	79-39-0	メタクリルアミド	二監相当		5
2-608	88-09-5	2-エチル酪酸	二監相当		7
3-1183	90-02-8	2-ヒドロキシベンズアルデヒド	二監相当		9
5-56	97-99-4	テトラヒドロフルフリルアルコール	二監相当		11
3-2259	101-83-7	ジシクロヘキシルアミン	二監相当		13
2-235	110-63-4	1,4-ブタンジオール	二監相当		15
3-959	118-79-6	2,4,6-トリブロモフェノール	二監相当でない		17
3-500	123-07-9	4-エチルフェノール	二監相当		19
2-1514	126-98-7	メタクリロニトリル	二監相当		21
2-1291 2-2709	683-10-3	N,N-ジメチル-N-ドデシルグリシン	二監相当		23
2-1044	868-77-9	メタクリル酸2-ヒドロキシエチルエステル	二監相当		25
2-2583	2439-35-2	アクリル酸2-(ジメチルアミノ)エチルエステル	二監相当		27
2-1047	2867-47-2	2-(ジメチルアミノ)エチルメタクリラート	二監相当		29
2-798	111-82-0	ドデカン酸メチル		三監相当	31
2-66 2-68	111-85-3	1-クロロオクタン		三監相当	32
2-176 2-183	124-28-7	N,N-ジメチル-n-オクタデシルアミン		三監相当	33
2-814 2-827 2-2503	93-83-4	N,N-ビス(2-ヒドロキシエチル)-オレアミド		三監相当	34
2-8	111-65-9	オクタン		三監相当	35
2-27	112-41-4	1-ドデセン		三監相当	36
5-3732	52829-07-9	デカン二酸ビス(2,2,6,6-テトラメチル-4-ピペリジニル)		三監相当	37

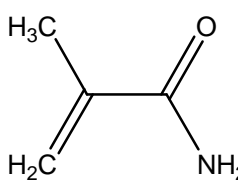
	NOEL	反復投与毒性：8 mg/kg/day 生殖発生毒性：200 mg/kg/day			
	推定根拠	反復投与毒性： 組織学的所見（精巣上体－管腔内細胞残屑：40 以上♂） 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない			
	他の毒性	反復投与毒性： 一般状態（流涎：200♂♀、異常呼吸音：200♂） 血液生化学的検査（TP↓・Alb↓：200♂） 組織学的所見（前胃－扁平上皮過形成・粘膜びらん・潰瘍・出血・炎症性細胞浸潤・粘膜下織水腫・粘膜下織肉芽・漿膜肉芽、腺胃－粘膜びらん・出血：200♀♂、腺胃－粘膜炎症性細胞浸潤・粘膜下織水腫、精巣－精細管精母細胞/円形精子細胞変性・精細管伸長した精子細胞変性、精巣上体－管腔内精子変性/減少：200♂、腺胃－粘膜潰瘍、膈－上皮粘液細胞化：200♀） 生殖発生毒性： －			
	回復性	実施せず			
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL 8mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S61	0/33	－	(3) μg/L
	底質	S61	4/27	0.13～0.63 μg/g-dry	(0.08) μg/g-dry
	魚類				
	大気	H3	1/48	150 ng/m ³	(150) ng/m ³
その他					
備考	※1 S62、H4 年版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-186	CAS No.	75-59-2
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：テトラメチルアンモニウムヒドロキシド 分子量：91.03 分子式：C ₄ H ₁₃ NO <div style="text-align: center;"> </div>		
用途	2-186 として中間物、溶剤、プロセス調節剤、工業用洗浄剤、接着剤用、写真・印刷等用、繊維剤、電気・電子材料、冷媒・熱媒、その他 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	2-186 として 10,000～100,000 t 未満 ^{*1}		
外観	無色透明液体 (20%水溶液)		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
Ames	陰性 濃度 20 % (水溶液). 溶媒 (注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 純度換算有り* 1250 μg/plate まで実施した用量設定試験試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群 : 1250 μg/plate* (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1250 μg/plate* (TA98, TA100, TA1535,TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate* (WP2uvrA : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 1250 μg/plate* (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1250 μg/plate* (TA98, TA100, TA1535,TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate* (WP2uvrA : 2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 濃度 20 % (水溶液). 溶媒 (注射用水-溶解). CHL/IU. 純度換算有り* 0.91mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 0.91mg/mL* (10mM) +S9mix 群 : 0.91mg/mL* (10mM) 24 時間処理群 : 0.91mg/mL* (10mM)		
28 日間 反復投与	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IGS	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：局方注射用水	
	濃度	20.19% (水溶液)	
	用量	3 用量 (5, 10, 20 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	5 mg/kg/day 未満	
	推定根拠	一般状態 (流涎：5 以上♂10 以上♀) 絶対重量 (心臓↓：5 以上♂)	
	他の毒性	相対重量 (心臓↓：10 以上♂)	
回復性	問題なし		

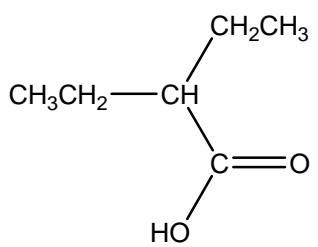
	備考	予備試験（急性経口投与毒性試験）において 50 及び 100mg/kg の全例で間代性痙攣が認められた。
人健康影響判定根拠		Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 5mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質相当。
備考		※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1065	CAS No.	79-39-0
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：メタクリルアミド 分子量：85.11 分子式：C ₄ H ₇ NO 		
用途	—		
製造及び 輸入数量	100 t 以上		
外観	白色結晶		
分解性	良分解性		
蓄積性	—		
Ames	陰性 純度 ≥99.5 %. 溶媒（注射用水－溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μ g/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. （本試験Ⅰ） - S9mix 群：5000 μ g/plate + S9mix 群：5000 μ g/plate （本試験Ⅱ） - S9mix 群：5000 μ g/plate + S9mix 群：5000 μ g/plate		
染色体 異常	陰性 純度 ≥99.5 %. 溶媒（注射用水－溶解）. CHL/IU. 0.90mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. - S9mix 群：0.90mg/mL (10mM) + S9mix 群：0.90mg/mL (10mM) 24 時間処理群：0.90mg/mL (10mM) 48 時間処理群：0.90mg/mL (10mM)		
28 日間 反復投与	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IGS	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：局方精製水	
	純度	99.5%	
	用量	3 用量 (30, 100, 300 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験 (600 : 3/5♂ 1/5♀)	
	NOEL	30 mg/kg/day 未満	
	推定根拠	FOB (自発運動低下 : 30 以上♀ 100 以上♂)	

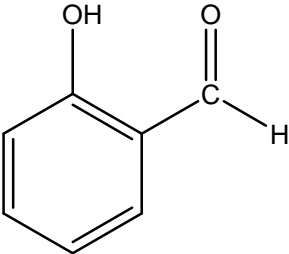
他の毒性	<p>一般状態（よろめき歩行：300♀♂、後肢の反転：300♀） FOB（歩行失調・筋緊張の低下：300♀♂、握力（前肢）↓：300♂） 体重↓：100以上♀300♂ 絶対重量（副腎↓：300♂、胸腺↓：300♀、脳↓・肺↓・心↓・肝↓・下垂体↓・脾↓：300♂♀） 絶対重量（腎↑：100以上♂300♀、精巣↑・精巣上体↑・甲状腺↑：300♂、脳↑・肺↑・心↑・肝↑：300♂♀） 血液学的検査（Hct↓：300♀♂） 血液生化学的所見（TG↑：300♀） 剖検所見（膀胱－内腔拡張：300♀♂） 組織学的所見（小脳－小脳脚における軸索膨化、坐骨神経－神経線維の変性：300♀♂） 回復期：握力↓（後肢）：300♂♀、開脚幅低値：300♂、精巣－ステージIX，Xにおけるステップ19精子細胞のretention：300♂</p>
回復性	<p>体重↓、よろめき歩行、後肢の反転、歩行失調、筋緊張、自発運動低下、小脳－小脳脚における軸索膨化、坐骨神経－神経線維の変性</p>
人健康影響判定根拠	<p>Ames試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 30mg/kg/day未満であり神経毒性と思われる重要な毒性学的所見が認められ、かつ、回復性も悪いことから第二種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-608	CAS No.	88-09-5
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称：2-エチル酪酸 分子量：116.16 分子式：C₆H₁₂O₂</p> 		
用途	2-608 として中間物、溶剤、プロセス調節剤、着色剤、工業用洗浄剤、家庭等洗浄剤、塗料用、着香・脱臭剤、繊維剤、樹脂添加剤、ゴム添加剤、潤滑・研削油、燃料等、その他※1		
製造及び 輸入数量	2-608 として 100,000～1,000,000 t 未満※1		
外観	無色液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	－		
Ames	<p>陰性 純度 99.2%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) －S9mix 群：5000 μg/plate ＋S9mix 群：5000 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537: 最高用量で菌の生育阻害) (WP2uvrA) (本試験 II) －S9mix 群：5000 μg/plate ＋S9mix 群：5000 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537: 最高用量で菌の生育阻害) (WP2uvrA)</p>		
染色体 異常	<p>陽性 D20 値=1.06mg/ml (24 時間処理群：構造異常) 24 時間処理群において構造異常の誘発. 純度 99.2%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 4.0mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. －S9mix 群：1.6mg/mL ＋S9mix 群：1.6mg/mL (細胞毒性のため 0.8mg/mL まで観察) 24 時間処理群：1.6mg/mL (細胞毒性のため 1.6mg/mL は半分の観察細胞数で観察) ※細胞増殖抑制試験に先立ち、4.5mg/mL (溶媒：DMSO) 及び 5.0mg/mL (溶媒：アセトン) まで予備試験を実施。</p>		
反復投与 毒性・生 殖発生毒 性併合試 験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IGS	
	投与方法	溶媒：コーン油. 強制経口投与.	
	純度	99.2%.	
	用量	3 投与群 (10, 50, 250mg/kg).	
	死亡	予備試験 (瀕死 1000 : 1/5♂ [呼吸異常]) 本試験 (対照群 : 1/13 [難産のため])	

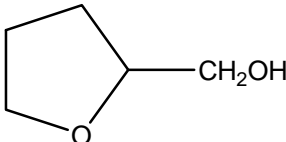
	NOEL	反復投与毒性：10 mg/kg/day 生殖発生毒性：10 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性： 血液学的検査（WBC ↓：50 以上♂） 生殖発生毒性： 分娩及び哺育行動異常：50 以上♀
	他の毒性	反復投与毒性： 血液学的検査（plt ↓：250♂） 絶対重量（腎 ↑：250♀） 相対重量（腎 ↑：250♀♂） 生殖発生毒性： 生児出産率 ↓・出生率 ↓ 生存児数（生存 0 日及び 4 日） ↓：250
	回復性	実施せず
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL 10mg/kg/day であるこ とから第二種監視化学物質相当。	
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1183	CAS No.	90-02-8
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2-ヒドロキシベンズアルデヒド 分子量：122.12 分子式：C ₇ H ₆ O ₂		
			
用途	3-1183 として中間物 ^{※1}		
製造及び 輸入数量	3-1183 として 1,000～100,000 t 未満 ^{※1}		
外観	淡黄色液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
Ames	陰性 純度≥95%. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群：500 μg/plate (TA100：最高用量で菌の生育阻害) 1000 μg/plate (TA1537：500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (TA98, TA1535：最高用量で菌の生育阻害) 4000 μg/plate (WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：500 μg/plate (TA100：最高用量で菌の生育阻害) 2000 μg/plate (TA98, TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 4000 μg/plate (WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：500 μg/plate (TA100：最高用量で菌の生育阻害) 1000 μg/plate (TA98, TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 4000 μg/plate (WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：500 μg/plate (TA100：最高用量で菌の生育阻害) 2000 μg/plate (TA1535：1000 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (TA98, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 4000 μg/plate (WP2uvrA：最高用量で菌の生育阻害)		

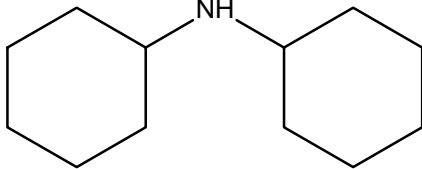
染色体異常	陽性 D20 値=0.025mg/ml (+S9mix 群：数的異常) ±S9mix 群及び 24 時間処理群において構造異常の誘発、+S9mix 群及び 48 時間処理群において数的異常の誘発。 純度≥95.0%。溶媒 (DMSO-溶解)。CHL/IU。 1.2mg/ml (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.2mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群：0.2mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群：0.02mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 48 時間処理群：0.02mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)	
反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)
	投与方法	溶媒：オリーブ油。強制経口投与。
	純度	99.3%。
	用量	4 投与群 (2.5, 10, 40, 160mg/kg)。
	死亡	予備試験 (200 : 1/5♂2/5♀、400 : 5/5♂4/5♀) 本試験 (40 : 1/12♀、160 : 1/12♀)
	NOEL	反復投与毒性：10 mg/kg/day 生殖発生毒性：40 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性： 組織学的所見 (肝-細胞内グリコーゲン量↑：40 以上♀、肝-小葉周辺脂肪化減少：40 以上♂) 生殖発生毒性： 哺育 4 日までの同腹内新生児死亡の母体数増加：160♀ 新生児生存率↓：160 低体重 (生後 0 日)、体重増加抑制 (生後 4 日)：160
他の毒性	反復投与毒性： 血液学的検査 (PT↑：160♂) 血液生化学的所見 (A/G↑・Alb↑：160♂) 相対重量 (肝臓↑・卵巣↓：160♀) 絶対重量 (肝臓↑・卵巣↓：160♀) 生殖発生毒性： —	
回復性	実施せず	
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL 10mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成 19 年実績)	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-56	CAS No.	97-99-4
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：テトラヒドロフルフリルアルコール 分子量：102.13 分子式：C ₅ H ₁₀ O ₂ <div style="text-align: center;">  </div>		
用途	5-56 として工業用洗浄剤、塗料用、樹脂添加剤 ^{※1}		
製造及び 輸入数量	5-56 として 1,000～100,000 t 未満 ^{※1}		
外観	無色液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	－		
Ames	陰性 純度 99.5%. 溶媒（注射用水－溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA/pKM101. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 （本試験Ⅰ） －S9mix 群：5000 μg/plate ＋S9mix 群：5000 μg/plate （本試験Ⅱ） －S9mix 群：5000 μg/plate ＋S9mix 群：5000 μg/plate		
染色体 異常	陰性 純度 99.5%. 溶媒（生理食塩液－溶解）. CHL/IU. 1.03mg/ml (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 －S9mix 群：1.03mg/mL (10mM) ＋S9mix 群：1.03mg/mL (10mM) 24 時間処理群：1.03mg/mL (10mM)		
28 日間 反復投与 毒性試験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IGS	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：局方精製水	
	純度	99.5 %	
	用量	4 投与群（10, 40, 150, 600 mg/kg/day）	
	死亡	なし	
	NOEL	40 mg/kg/day	
	推定根拠	一般状態（自発運動亢進：150 以上♀600♂） 血液生化学的検査（TP↓：150 以上♂600♀） 相対重量（下垂体↓：150 以上♀） 組織学的所見（精巣－精上皮細胞壊死・脾－被膜炎：150 以上♂）	

他の毒性	<p>体重↓：600♂、摂餌量↓：600♂ 一般状態（自発運動低下・腹臥姿勢：600♂♀） FOB（後肢握力↓：600♂） 尿検査（pH↓：600♂） 血液学的検査（WBC↓・Plt↓・PT↑・MCH↓・MCHC↓：600♂♀） 血液生化学的検査（Alb↓・Ca↓：600♂♀、TG↓・BUN↑・Na↓：600♂） 絶対重量（胸腺↓・下垂体↓：600♂♀） 相対重量（胸腺↓：600♂♀、腎↑：600♀） 組織学的所見（胸腺－萎縮：600♂♀） 精巣－精子形成サイクル検査（精子細胞/セルトリ細胞↓：600 [ステージII-III・V・XII]）</p>
回復性	<p>TP↓、BUN↑、Ca↓、胸腺↓、精巣－精上皮細胞壊死、精巣－精子形成サイクル検査（パテキン期精母細胞・精子細胞/セルトリ細胞↓：600 [ステージII-III・V]）</p>
人健康影響判定根拠	<p>Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 40mg/kg/day であり神経毒性と思われる所見及び毒性学的に重要な変化が認められ、かつ回復製が悪いことから第二種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2259	CAS No.	101-83-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ジシクロヘキシルアミン 分子量：181.31 分子式：C ₁₂ H ₂₃ N 		
用途	3-2259 として中間物、プロセス調節剤、ゴム添加剤、潤滑・研削油、水処理剤、その他 ※1		
製造及び 輸入数量	3-2259 として 10,000～100,000 未満※1		
外観	無色液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	—		
Ames	陰性 純度 99.63%. 溶媒 (アセトン-溶解). プレート法 (-S9mix 群のみ). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群：2500 μg/plate (最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：2500 μg/plate (最高用量で菌の生育阻害) (確認試験) -S9mix 群：2500 μg/plate (1500 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陽性 D20=0.96mg/mL (+S9mix 群：構造異常) ±S9mix 群において、構造異常の誘発. 純度 99.63%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/IU. 1.4mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群：1.0mg/mL (細胞毒性のため 0.6mg/mL 観察) +S9mix 群：1.0mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群：0.5mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 48 時間処理群：0.5mg/mL (細胞毒性のため 0.3mg/ml まで観察)		
28 日間 反復投与 毒性試験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.63%	
	用量	3 投与群 (20, 70, 200 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験 (250 : 4/5♂、500 : 5/5♂) 本試験 (対照群 : 1/13♂、200 : 8/13♂8/13♀)	
	NOEL	20 mg/kg/day	
推定根拠	一般状態 (流涎 : 70 以上♂♀、痙攣 : 70 以上♂200♀) 血液生化学的検査 (Pi↑ : 70 以上♀200♂、Ca↑ : 70 以上♀) 絶対重量 (卵巣↓ : 70 以上♀)		

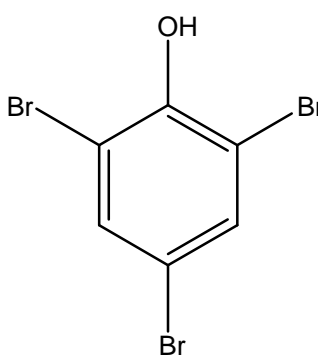
	他の毒性	体重↓：200♂♀、摂餌量↓：200♂ 一般状態（姿勢異常・自発運動低下・異常発声・呼吸異常・被毛の汚れ・散瞳：200♂♀、立毛：200♀） 血液学的検査（WBC↑：200♀） 血液生化学的検査（ALP↑：200♀） 絶対重量（副腎↑：200♂♀） 相対重量（副腎↑：200♂♀、卵巢↓：200♀）
	回復性	Pi↑、肝↓
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL 20mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-235	CAS No.	110-63-4
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1,4-ブタンジオール 分子量：90.12 分子式：C ₄ H ₁₀ O ₂ 		
用途	2-235 として中間物、溶剤、塗料用、接着剤用、樹脂添加剤 ^{※1}		
製造及び 輸入数量	2-235 として 100,000～1,000,000 t 未満 ^{※1}		
外観	無色透明液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
Ames	陰性 純度 99.8%. 溶媒（注射用水－溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 （本試験Ⅰ） - S9mix 群：5000 μg/plate + S9mix 群：5000 μg/plate （本試験Ⅱ） - S9mix 群：5000 μg/plate + S9mix 群：5000 μg/plate		
染色体 異常	陰性 純度 99.8%. 溶媒（注射用水－溶解）. CHL/IU. 0.90mg/ml(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 - S9mix 群：0.90mg/mL (10mM) + S9mix 群：0.90mg/mL (10mM) 24 時間処理群：0.90mg/mL (10mM) 48 時間処理群：0.90mg/mL (10mM)		
反復投与 毒性・生 殖発生毒 性併合試 験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：局方注射用水	
	純度	98.0%	
	用量	3 投与群（200, 400, 800 mg/kg/day）	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与毒性：200 mg/kg/day 未満 生殖発生毒性：400 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与毒性： 一般状態（活動性の増加：200 以上♂♀） 血液生化学的検査（Glu ↓：200 以上♂） 尿検査（血色素：200 以上♂♀） 生殖発生毒性： 新生児体重〔生後 4 日〕 ↓：800♂♀		

	他の毒性	反復投与毒性： 体重↓：400以上♀800♂、摂餌量↓：400以上♂♀ 一般状態（活動性の低下・腹臥位：400以上♂♀、昏睡・眼球突出・流涎： 800♂♀） 血液学的検査（Hgb↓：400以上♂，Hct↓：800♂） 病理組織学的検査（膀胱－びまん性粘膜上皮過形成・粘膜固有層の線維化： 400以上♂♀、胸腺－萎縮・出血：400以上♀、脾臓－ うっ血：400以上♀800♂） 生殖発生毒性： —			
	回復性	実施せず			
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 200mg/kg/day 未満であり、神経毒性と思われる毒性学的に重要な所見が認められることから第二種監視化学物質相当。				
環境調査 ※2	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S61	0/24	—	(2) $\mu\text{g/L}$
	底質	S61	0/24	—	(0.09) $\mu\text{g/g-dry}$
	魚類				
	大気				
その他					
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績） ※2 S62年版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-959	CAS No.	118-79-6
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	<p>名 称：2,4,6-トリブロモフェノール 分子量：330.82 分子式：C₆H₃OBr₃</p> 		
用途	3-959 として中間物、樹脂添加剤※ ¹		
製造及び 輸入数量	3-959 として 10,000～100,000 t 未満※ ¹		
外観	白色粉末		
分解性	良分解性		
蓄積性	—		
Ames	<p>陰性 純度 99.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I) -S9mix 群：500 μg/plate (TA98, TA100, TA1535：最高用量で菌の生育阻害) 1000 μg/plate (TA1537：500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA：2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：500 μg/plate (TA100, TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 1000 μg/plate (TA98：最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA：2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：500 μg/plate (TA98, TA100, TA1535：最高用量で菌の生育阻害) 1000 μg/plate (TA1537：500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA：2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：500 μg/plate (TA100, TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 1000 μg/plate (TA98：最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2uvrA：2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>軽微な陽性 D20 値=0.10mg/mL (±S9mix 群：構造異常) ±S9mix 群で構造異常のわずかな誘発。 純度 99.8%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 3.3mg/ml(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.050mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群：0.10mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群：0.10mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) 48 時間処理群：0.050mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度)</p>		

反復投与 毒性・生 殖発生毒 性併合試 験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)			
	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油			
	純度	99.8%			
	用量	3投与群（100, 300, 1000 mg/kg/day）			
	死亡	なし			
	NOEL	反復投与毒性：100 mg/kg/day 生殖発生毒性：300 mg/kg/day			
	推定根拠	反復投与毒性： 血液生化学的検査（Cre↑：300以上♂） 組織学的所見（腎尿管好塩基性化：300以上♂） 生殖発生毒性： 4日児生存率↓・体重↓ [生後0日・生後4日]：1000♂♀			
	他の毒性	反復投与毒性： 体重↓：1000♂♀ 血液生化学的検査（TP↑・Alb↑・A/G↑・ALP↑・K↓・Cl↑：1000♂） 絶対重量（胸腺↓：1000♂、肝↑：1000♂♀） 相対重量（肝↑・腎↑・副腎↑：1000♂♀） 病理組織学的検査（胸腺萎縮、肝肝細胞肥大、腎尿管腔拡張・硝子円柱・ 乳頭壊死・リンパ球浸潤：1000♂、肝マクロファージ 集簇：1000♂♀） 生殖発生毒性： —			
回復性	実施せず				
人健康影 響判定根 拠	Ames試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であり、NOEL 100mg/kg/dayであるが、 毒性としては弱いものと考えられることから第二種監視化学物質相当でない。				
環境調査 ※2	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	H17	15/18	0.0019～0.080 μg/L	(0.00087) μg/L
		H8	0/33	—	(0.35) μg/L
		S61	0/33	—	(0.006) μg/L
	底質	H8	0/33	—	(0.009) μg/g-dry
		S61	2/33	0.0015～0.0040 μg/g-dry	(0.0005) μg/g-dry
	魚類				
大気	H16	6/6	0.03～0.14 ng/m ³	(0.02) ng/m ³	
その他					
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績） ※2 S62、H9、H17、H18年版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				

	他の毒性	体重↓：1000♂♀、摂餌量↓：1000♂♀ 一般状態（よろめき歩行・横臥・流涎：1000♂♀） 尿所見（尿量↑：1000♀） 血液生化学的検査（GPT↑：1000♂、 γ -GTP↑・cho↑：1000♀） 相対重量（腎↑：1000♂） 組織学的検査（食道－扁平上皮過形成、前胃－潰瘍・粘膜下織肉芽形成、腺胃－びらん：1000♀、前胃－境界縁びらん：1000♂、前胃－扁平上皮変性・粘膜下織水腫：1000♂♀）			
	回復性	体重↓			
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL 100mg/kg/day かつ回復性が悪いことから第二種監視化学物質相当。				
環境調査 ※2	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S58	0/33	－	(0.06～0.3) μ g/L
	底質	S58	0/33	－	(0.001～0.02) μ g/g-dry
	魚類				
	その他				
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績） ※2 S59年版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1514	CAS No.	126-98-7
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：メタクリロニトリル 分子量：67.09 分子式：C ₄ H ₅ N <div style="text-align: center;">  </div>		
用途	-		
製造及び 輸入数量	100 t 以上		
外観	無色液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
Ames	陰性 純度 99%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I) -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate (本試験 II) -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate		
染色体 異常	陽性 D20 値=0.2mg/mL (+S9mix 群：構造異常) +S9mix 群において構造異常の誘発。 純度 99%. 溶媒 (注射用水-溶解). CHL/IU. 0.67mg/ml(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.67mg/mL (10mM) +S9mix 群：0.54mg/mL (細胞毒性のため 0.27mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.67mg/mL (10mM)		
反復投与 毒性・生 殖発生毒 性併合試 験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IGS	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：オリーブ油	
	純度	99%	
	用量	3 投与群 (7.5, 15, 30 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与毒性：7.5 mg/kg/day 未満 生殖発生毒性：30 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与毒性： 相対重量 (肝↑：7.5 以上♀30♂) 組織学的所見 (腺胃：びらん：7.5 以上♀) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない		

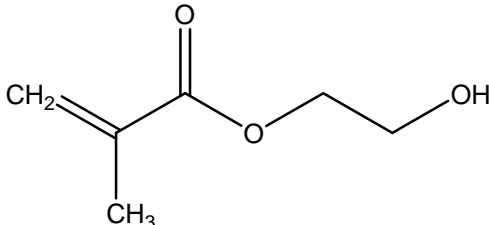
	他の毒性	反復投与毒性： 血液学的検査 (RBC↓・Hct↓・Hgb↓：30♂) 血液生化学的検査 (Bil↑：30♀、Cre↑：30♂) 絶対重量 (肝↑・脾↑：30♀) 相対重量 (脾↑：30♀) 組織学的所見 (脾-髓外造血：15以上♀) 生殖発生毒性： -			
	回復性	実施せず			
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL 7.5mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S62	0/75	—	(0.7) μg/L
	底質	S62	0/75	—	(0.014) μg/g-dry
	魚類				
	大気	S62	0/61	—	(40) ng/m ³
	その他				
備考	※1 S63 年版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1291, 2-2709	CAS No.	683-10-3
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：N,N-ジメチル-N-ドデシルグリシン 分子量：271.25 分子式：C ₁₆ H ₃₃ NO ₂ $\begin{array}{c} \text{CH}_3 \\ \\ \text{CH}_3(\text{CH}_2)_{11}-\text{N}^{\oplus}-\text{CH}_2\text{COO}^{\ominus} \\ \\ \text{CH}_3 \end{array}$		
用途	2-1291 及び 2-2709 として工業用洗浄剤、家庭等洗浄剤、塗料用、繊維剤、その他※ ¹		
製造及び 輸入数量	2-1291 として 10,000～100,000 t 未満 2-2709 として 1,000～10,000 t 未満※ ¹		
外観	淡黄色透明液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
Ames	陰性 濃度 27.1% (水溶液). 溶媒 (注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA/pKM101. 純度換算有り* 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群：39.1 μg/plate* (TA98, TA1537：19.5 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 78.1 μg/plate* (TA100, TA1535：39.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 156 μg/plate* (WP2uvrA：78.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：313 μg/plate* (TA100, TA1535：最高用量で菌の生育阻害) 625 μg/plate* (TA98, TA1537：313 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2500 μg/plate* (WP2uvrA：1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：39.1 μg/plate* (TA98, TA1537：19.5 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 78.1 μg/plate* (TA100, TA1535：39.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 156 μg/plate* (WP2uvrA：78.1 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群：313 μg/plate* (TA100, TA1535：最高用量で菌の生育阻害) 625 μg/plate* (TA98, TA1537：313 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2500 μg/plate* (WP2uvrA：1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 濃度 27.1% (水溶液). 溶媒 (蒸留水-溶解). CHL/IU. 純度換算有り* 0.5mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群：0.2mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) +S9mix 群：0.3mg/mL (細胞毒性のため 0.3mg/mL は半分の観察細胞数で観察) 24 時間処理群：0.15mg/mL (細胞毒性のため 0.125mg/mL まで観察)		
反復投与 毒性・生 殖発生毒 性併合試 験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IGS	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：局方注射用水	
	濃度	27.1% (水溶液)	
	用量	3 群 (10, 60, 300 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験 (1000：3/3♂3/3♀) 本試験 (300：2/17♀)	

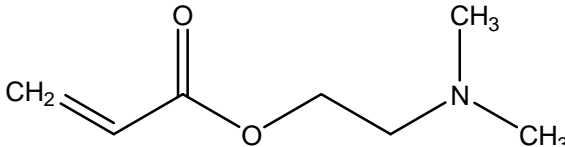
NOEL	反復投与毒性：10 mg/kg/day 生殖発生毒性：60 mg/kg/day
推定根拠	反復投与毒性： 組織学的所見（腎－尿細管上皮変性／壊死：60以上♀、腎－腎盂上皮過形成、膀胱－粘膜上皮過形成：60以上♂♀） 生殖発生毒性： 妊娠期間延長・出産児数↓：300、出生児死亡：300
他の毒性	反復投与毒性： 血液生化学的検査（BUN↑：300♂♀、Ca↑：300♀） 組織学的所見（前胃－び慢性炎症性細胞浸潤・水腫・びらん・角化亢進・扁平上皮過形成・錯角化：300♂♀、腎－尿細管好塩基性化：300♀） 生殖発生毒性： －
回復性	膀胱－粘膜上皮過形成、腎－腎盂上皮過形成
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 10mg/kg/day であり回復性が悪いことから第二種監視化学物質相当。
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1044	CAS No.	868-77-9
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：メタクリル酸 2-ヒドロキシエチルエステル 分子量：130.14 分子式：C₆H₁₀O₃</p> 		
用途	2-1044 として中間物、溶剤、塗料用、繊維剤、その他 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	2-1044 として 100,000～1,000,000 t 未満 ^{*1}		
外観	無色透明液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
Ames	<p>陰性 純度 97.6%. 溶媒（注射用水－溶解）. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 （本試験 I） -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate （本試験 II） -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陽性 D20=0.20mg/mL（48 時間処理群：構造異常） +S9mix 群及び 24 時間並びに 48 時間処理群において構造異常の誘発、-S9mix 群 及び 48 時間処理群において数的異常の誘発。 純度 97.6%. 溶媒（注射用水－溶解）. CHL/IU. 4.0mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：1.3mg/mL（10mM） +S9mix 群：1.3mg/mL（10mM） 24 時間処理群：1.3mg/mL（10mM） 48 時間処理群：1.3mg/mL（細胞毒性のため 0.65mg/mL まで観察）</p>		
反復投与 毒性・生 殖発生毒 性併合試 験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	97.6 %	
	用量	4 投与群（30, 100, 300, 1000 mg/kg/day）	
	死亡	1000♂（1/12）、1000♀（6/12）	
	NOEL	反復投与毒性：30 mg/kg/day 生殖発生毒性：1000 mg/kg/day	

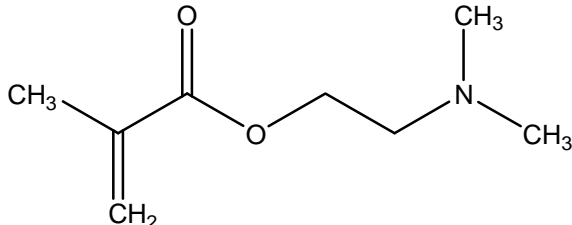
	推定根拠	反復投与毒性： 絶対重量（腎↑：100以上♀） 相対重量（腎↑：100以上♂1000♀） 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない			
	他の毒性	反復投与毒性： 体重↓：1000♂♀、摂餌量↓：1000♂♀ 一般状態（流涎：1000♂♀、自発運動低下・腹臥・流涙・被毛の汚れ・表皮温降下・呼吸緩徐：1000♀） 血液生化学的検査（TG↓・K↑・Cl↑・Pi↑：1000♂） 病理組織学的所見（腎－尿細管拡張・集合管拡張：1000♂） 生殖発生毒性： －			
	回復性	実施せず			
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが染色体異常試験は陽性であり、NOEL 30mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。				
環境調査 ※2	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	H11	3/27	0.12～051 μg/L	(0.025) μg/L
	底質	H11	0/27	－	(0.0014) μg/g-dry
	魚類				
	その他				
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績） ※2 H12年版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課）				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-2583	CAS No.	2439-35-2
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：アクリル酸 2-（ジメチルアミノ）エチルエステル 分子量：143.18 分子式：C ₇ H ₁₃ NO ₃		
			
用途	-		
製造及び 輸入数量	100 t 以上		
外観	無色透明液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
Ames	陽性 比活性値 = 10.6 rev./mg (+S9mix 群：TA98) +S9mix 群の TA98 で対照の 2 倍を超える変異コロニーの誘発。 純度 99.9%。溶媒（注射用水－溶解）。 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA。 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 (本試験 I) -S9mix 群：2500 μg/plate (TA98, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA100, TA1535, WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：5000 μg/plate (TA1535：2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (TA1537：最高用量で菌の生育阻害) (TA98, TA100, WP2 uvrA) (本試験 II) -S9mix 群：2500 μg/plate (TA1537：1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (TA98：最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA1535：2500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (TA100, WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：5000 μg/plate (TA1535, TA1537：最高用量で菌の生育阻害) (TA98, TA100, WP2 uvrA) (確認試験) +S9mix 群：5000 μg/plate (TA98)		
染色体 異常	陽性 D20 = 0.014 mg/mL (-S9mix 群：構造異常) すべての群において構造異常及び数的異常の誘発。 純度 99.9%。溶媒（注射用水－溶解）。CHL/IU。 1.4 mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：0.08 mg/mL (細胞毒性のため 0.01 mg/mL まで観察) +S9mix 群：0.4 mg/mL (細胞毒性のため 0.05 mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.12 mg/mL (細胞毒性のため 0.06 mg/mL まで観察) 48 時間処理群：0.12 mg/mL (細胞毒性のため 0.06 mg/mL まで観察)		
反復投与 毒性・生	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	

殖発生毒性併合試験	純度	99.9 %
	用量	3 投与群 (4, 20, 100 mg/kg/day)
	死亡	100♀ : 2/12 [肺出血]
	NOEL	反復投与毒性 : 4 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 100 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性 : 病理組織学的検査 (前胃 - 粘膜上皮過形成・炎症性細胞浸潤・潰瘍 : 20 以上♂100♀) 生殖発生毒性 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない
他の毒性	反復投与毒性 : 一般状態 (流涎 : 100♂♀) 血液学的検査 (Ret ↑・Plt ↑・Lymp ↓・Seg ↑ : 100♂) 血液生化学的検査 (Alb ↓ : 100♂) 相対重量 (胸腺 ↓ : 100♀) 絶対重量 (胸腺 ↓ : 100♀) 病理組織学的所見 (膵十二指腸リンパ節 - 形質細胞の増生 : 100♂♀、胸腺 - 退縮 : 100♀) 生殖発生毒性 : —	
回復性	実施せず	
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陽性であり、NOEL 4mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成19年実績)	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1047	CAS No.	2867-47-2
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2-（ジメチルアミノ）エチルメタクリラート 分子量：157.22 分子式：C ₈ H ₁₅ NO ₂		
			
用途	2-1047 として中間物、塗料用、繊維剤、潤滑・研削油、水処理剤 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	2-1047 として 10,000～100,000 t 未満 ^{*1}		
外観	無色透明液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
Ames	陽性 比活性値=3.2rev./mg（-S9mix 群：TA1537） -S9mix 群の TA1537 で対照の 2 倍を超える変異コロニーの誘発。 純度 99.9%。溶媒（蒸留水-溶解）。 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA。 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 （本試験 I） -S9mix 群：5000 μg/plate（TA98, TA1537：最高用量で菌の生育阻害） （TA100, TA1535, WP2uvrA） +S9mix 群：5000 μg/plate （本試験 II） -S9mix 群：5000 μg/plate（TA98, TA1537：最高用量で菌の生育阻害） （TA100, TA1535, WP2uvrA） +S9mix 群：5000 μg/plate （確認試験） -S9mix 群：5000 μg/plate（TA98, TA1537：3500 μg/plate 以上で菌の生育阻害）		
染色体 異常	陽性 D20=0.19mg/mL（-S9mix 群：構造異常） ±S9mix 群において構造異常の誘発。 純度 99.9%。溶媒（蒸留水-溶解）。CHL/IU。 5.0mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：1.6mg/mL（細胞毒性のため 0.6mg/mL まで観察） +S9mix 群：1.6mg/mL（50%以上細胞増殖抑制濃度） 24 時間処理群：0.625mg/mL（50%以上細胞増殖抑制濃度） 48 時間処理群：0.625mg/mL（50%以上細胞増殖抑制濃度）		
反復投与 毒性・生 殖発生毒 性併合試 験	動物種・系統	ラット Crj:CD(SD)IGS	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.9 %	
	用量	3 投与群（40, 200, 1000 mg/kg/day）	
死亡	対照群：1/12 ♀ [難産]、1000：3/12 ♀ [肺水腫]		

	NOEL	反復投与毒性：40 mg/kg/day 生殖発生毒性：200 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性： 一般状態（流涎：200 以上♀1000♂） 血液学的検査（Hgb ↓・Hct ↓・Ret ↑：200 以上♂） 生殖発生毒性： 母体：哺育行動異常 児：生後 0 日児体重 ↓・生後 4 日児生存率 ↓：1000
	他の毒性	反復投与毒性： 体重 ↓・摂餌量 ↓：1000 ♀ 一般状態（挙尾・攣縮：1000♂♀、間代性痙攣：1000♂） 尿検査（尿量 ↑：1000♂） 血液学的検査（RBC ↓・MCV ↓・MCH ↓・WBC ↑・Lymp ↓：1000♂） 血液生化学的検査（BUN ↑・Na ↓：1000♂） 絶対重量（副腎 ↑：1000 ♀） 相対重量（肝 ↑：1000♂、腎 ↑：1000♂♀、副腎 ↑：1000 ♀） 組織学的所見（胃－水腫、前胃－び慢性粘膜過形成・炎症性細胞浸潤、脳－赤核脊髓路領域神経線維変性、脊髓－背側後脊髓小脳路神経線維変性：1000♂♀、腎－好塩基性尿管：1000♂、前胃－潰瘍、胸腺－萎縮：1000 ♀） 生殖発生毒性： －
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陽性であり、NOEL 40mg/kg/day であり、神経毒性と思われる毒性学的に重要な所見が認められることから第二種監視化学物質相当。	
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-798	CAS No.	111-82-0
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ドデカン酸メチル 		
用途	2-798 として中間物、溶剤、プロセス調節剤、家庭等洗浄剤、印刷インキ等、着香・消臭剤、繊維剤、樹脂添加剤、ゴム添加剤、皮革処理剤、潤滑・研削油、電気電子材料、燃料等、その他 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	2-798 として 100,000～1,000,000 t 未満 ^{*1}		
外観	無色透明液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	—		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG (2003) 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.038、0.075、0.15、0.30、0.60 mg/L 実測濃度 0.040、0.074、0.16、0.32、0.60 mg/L（ばく露開始時） 助剤：DMF 0.1 mL/L 72hEC50（実測値に基づく）=0.32 mg/L 72hNOEC（実測値に基づく）=0.040 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：流水式 純度：99.6% 試験濃度：設定濃度 0.063、0.13、0.25、0.50、1.0 mg/L 実測濃度 0.0096、0.033、0.081、0.21、0.41 mg/L（算術平均値） 助剤：DMF 0.1 mL/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.081 mg/L		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hNOEC=0.040 mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.081 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	試験用水溶解度：藻類培地：0.69 mg/L、脱塩素水道水：0.48 mg/L ※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）		

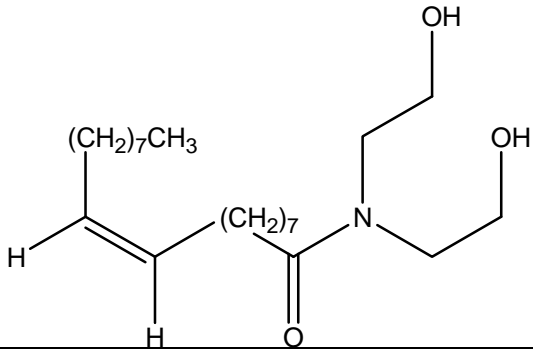
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-66 2-68	CAS No.	111-85-3
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-クロロオクタン 		
用途	2-68として中間物、ゴム添加剤、潤滑・研削油、その他 ^{*1}		
製造及び 輸入数量	2-68として10,000～100,000 t未満 ^{*1}		
外観	無色透明液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 (1984) 培養方式： 振とう培養 純度： ≥95.0% 試験濃度： 設定濃度 3.6、8.2、19、44、100 mg/L 実測濃度 0.074、0.095、0.16、0.27、1.5 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-50 100 mg/L 72hEC50 (実測値に基づく) >1.5 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) =0.27 mg/L ①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 (1997) 試験方式： 半止水式、週に3回換水 純度： ≥95.0% 試験濃度： 設定濃度 0.070、0.12、0.21、0.38、0.69、1.2 mg/L 実測濃度 -、-、-、0.073、0.17、0.30 mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-50 100 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.073 mg/L		
魚類初期 生活段階 毒性試験	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG210 (1992) 試験方式： 流水式 純度： 99.9% 試験濃度： 設定濃度 0.015、0.038、0.095、0.24、0.60 mg/L 実測濃度 0.0085、0.021、0.057、0.16、0.40 mg/L (算術平均値) 助剤： HCO-60 1.2 mg/L、DMF 約0.1 mL/L 40dNOEC (孵化後の生存率) (実測値に基づく) =0.057 mg/L		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において72hNOEC=0.27 mg/Lであるが、ミジンコ繁殖阻害試験において21dNOEC=0.073 mg/L、魚類初期生活段階毒性試験において40dNOEC=0.057 mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	対水溶解度： 4.89 mg/L (25℃) (EPI Suite v.4.0) ※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成19年実績)		

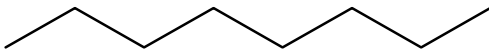
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-176 2-185	CAS No.	124-28-7
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：N，N-ジメチル-n-オクタデシルアミン $\begin{array}{c} \text{H}_3\text{C} \\ \diagdown \\ \text{N} \\ \diagup \\ \text{H}_3\text{C} \end{array} \text{---} (\text{CH}_2)_{17} \text{---} \text{CH}_3$		
用途	2-176 として中間物、工業用洗浄剤、家庭等洗浄剤、工業用殺菌等、ゴム添加剤、水処理剤、その他 ^{※1}		
製造及び 輸入数量	2-176 として 1,000～10,000 t 未満 ^{※1}		
外観	無色透明液体		
分解性	良分解性		
蓄積性	-		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 (1984) 培養方式： 振とう培養 純度： 93.3% 試験濃度： 設定濃度 0.0015、0.0027、0.0049、0.0089、0.016 mg/L 実測濃度 0.00060、0.00070、0.0010、0.0013、0.0018 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 0.16 mg/L 72hEC50 (実測値に基づく) = 0.0018 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 0.0010 mg/L ①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 (1998) 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 純度： 93.3% 試験濃度： 設定濃度 0.0031、0.0063、0.013、0.025、0.050 mg/L 実測濃度 -、-、-、0.011、- mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-40 0.50 mg/L 21dNOEC (設定値に基づく) = 0.0063 mg/L		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hNOEC=0.0010 mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0063 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	対水溶解度： 0.44 mg/L (化審法の既存化学物質安全性点検データ集) ※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成19年実績)		

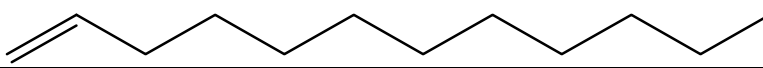
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-814 2-827 2-2503	CAS No.	93-83-4
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：N，N-ビス（2-ヒドロキシエチル）-オレアミド 		
用途	2-814、2-827、2-2503 として工業用洗浄剤、家庭等洗浄剤、繊維剤、樹脂添加剤、潤滑・研削油、電気電子材料、その他 ^{※1}		
製造及び 輸入数量	2-814、2-827、2-2503 として 1,000～10,000 t 未満 ^{※1}		
外観	無色透明液体		
分解性	-		
蓄積性	-		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 (1984) 培養方式： 振とう培養 純度： 75.1% 試験濃度： 設定濃度 1.0、2.1、4.4、9.2、19、41、85 mg/L 実測濃度 0.55、1.1、2.4、5.1、12、22、55 mg/L (幾何平均値) 助剤： 不明 72hEC50 (実測値に基づく) > 55 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) = 12 mg/L ①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 (1998) 試験方式： 半止水式、週に 3 回換水 純度： 75.1% 試験濃度： 設定濃度 0.021、0.038、0.069、0.12、0.22、0.40 mg/L 実測濃度 -、-、0.010、0.026、0.057、0.13 mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-50 1.2 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.057 mg/L		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hNOEC=12 mg/L であるが、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.057 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成 19 年実績)		

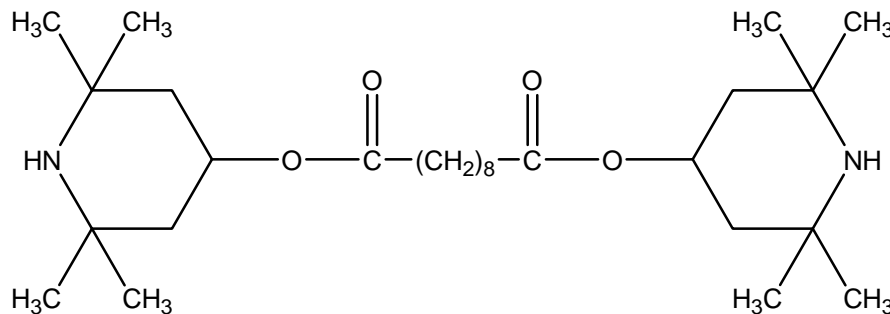
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-8	CAS No.	111-65-9
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：オクタン 		
用途	2-8 として溶剤、燃料等 ^{※1}		
製造及び 輸入数量	2-8 として 1,000,000～10,000,000 t 未満 ^{※1}		
外観	無色透明液体		
分解性	-		
蓄積性	-		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 (1984) 培養方式： 振とう培養 (密閉系) 純度： 99.2% 試験濃度： 設定濃度 20 mg/L (24 時間振とう後にばく露)、5.0、10、20 mg/L (試験液調製直後にばく露) 実測濃度 0.089、0.28、0.57、1.1 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-40 100 mg/L 溶解限度で影響が認められなかった。 ①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 (1997) 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 純度： 99.2% 試験濃度： 設定濃度 0.024、0.043、0.077、0.14、0.25 mg/L 実測濃度 0.013、0.023、0.045、0.084、0.16 mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-40 濃度不明 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.045 mg/L		
魚類初期 生活段階 毒性試験	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG210 (1992) 試験方式： 流水式 純度： 98.1% 試験濃度： 設定濃度 0.010、0.025、0.063、0.16、0.40 mg/L 実測濃度 0.0057、0.013、0.028、0.069、0.19 mg/L (算術平均値) 助剤： HCO-60 0.8 mg/L、DMF 約 0.1 mL/L 41dNOEC (体重・体長) (実測値に基づく) = 0.028 mg/L		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において溶解限度で影響が認められないが、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.045 mg/L、魚類初期生活段階毒性試験において 41dNOEC=0.028 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	対水溶解度: 0.66mg/L (20℃) (Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals) ※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成19年実績)		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-27	CAS No.	112-41-4
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：1-ドデセン 		
用途	2-27 として中間物、溶剤、塗料用、繊維剤、樹脂添加剤、その他		
製造及び 輸入数量	2-27 として 10,000～100,000 t 未満 ^{*1}		
外観	無色透明液体		
分解性	-		
蓄積性	-		
藻類生長 阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 (1984) 培養方式： 振とう培養 純度： 95% 試験濃度： 設定濃度 0.45、0.95、2.0、4.3、9.0、19、40 mg/L 実測濃度 0.016、0.020、0.030、0.041、0.059、0.086、0.097 mg/L (幾何平均値) 助剤： HCO-50 100 mg/L 72hEC50 (実測値に基づく) >0.097 mg/L 72hNOEC (実測値に基づく) =0.059 mg/L ①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 (1998) 試験方式： 半止水式、週に 3 回換水 純度： 95% 試験濃度： 設定濃度 0.019、0.033、0.060、0.11、0.19、0.35 mg/L 実測濃度 0.0051、0.012、0.012、0.028、0.041、0.11mg/L (時間加重平均値) 助剤： HCO-50 100 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.041 mg/L		
生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 72hNOEC=0.059 mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.041 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査 (平成19年実績)		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-3732	CAS No.	52829-07-9
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：デカン二酸ビス（2，2，6，6-テトラメチル-4-ピペリジニル）</p> 		
用途	5-3732 として塗料用、接着剤用、樹脂添加剤、電気電子材料 ^{※1}		
製造及び 輸入数量	5-3732 として 10,000～100,000 t 未満 ^{※1}		
外観	白色結晶性粉末		
分解性	-		
蓄積性	-		
藻類生長 阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201（1984） 培養方式： 振とう培養 純度： 99.2% 試験濃度： 設定濃度 0.020、0.043、0.093、0.20、0.43、0.93、2.0 mg/L 実測濃度 0.011、0.013、0.050、0.13、0.35、0.72、1.8 mg/L（幾何平均値） 助剤： THF 及び HCO-40 40 mg/L 72hEC50（実測値に基づく） = 1.0 mg/L 72hNOEC（実測値に基づく） = 0.050 mg/L</p> <p>①実測濃度の幾何平均値を用いて、速度法に基づく毒性値を再計算している。</p>		
ミジンコ 繁殖阻害 試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211（1998） 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 純度： 99.2% 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.30、0.90、2.8、8.5 mg/L 実測濃度 0.080、0.23、0.61、2.1、6.7 mg/L（時間加重平均値） 助剤： THF 及び HCO-40 68 mg/L 21dNOEC（実測値に基づく） = 0.23 mg/L</p>		
生態影響 判定根拠	ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.23 mg/L であるが、藻類生長阻害試験において 72hNOEC=0.050 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。		
備考	※1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査（平成19年実績）		